

イー歯トープ 8020



# 歯と口のハテナ

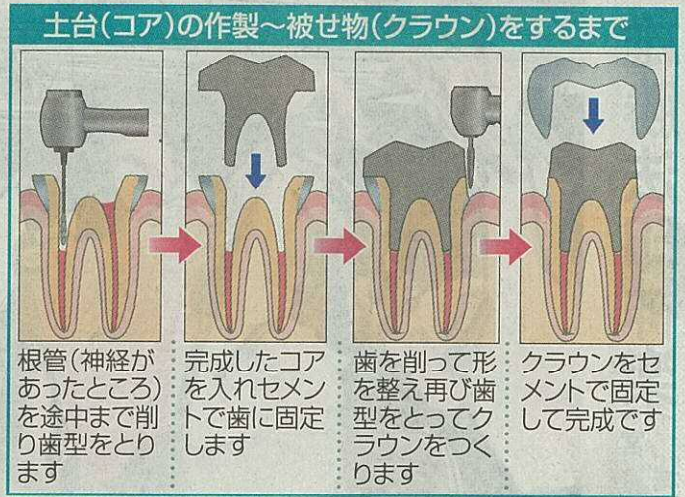
⑬ 県歯科医師会

大きなむし歯や外傷によって、歯質の欠損が神経まで達した場合、あるいは神経が死んでしまったり、根の中にばい菌が入った場合には、「根の治療」が必要になり、根の内部を掃除し無菌化します。根の治療が終了した後は、最後に歯として機能する部分に、詰め物や被せ物を装着することになります。

これには、歯の欠けた部分の大きさや程度により①欠けた部分が小さい時（歯が多く残っている場合）は詰め物（部分的な金属や白い樹脂など）②欠けた部分が大きい時（歯が少ししか残っていない場合）は被せ物となります。

## 「被せ物」はなぜ必要？

小原 宜裕



※レジン(歯科用樹脂)で、口の中で直接コアを作る場合もあります

## 破折予防する役目も

この「被せ物」が必要な場合は、二つのケースがあります。残りの歯が少なく、被せないと歯が機能しないケースは、歯を補強するために土台(コア)を作り、被せ物を装着します。もつ一つは、一見、残りの歯

が十分に見えても、噛む力で歯が割れてしまうリスクの高いケースです。神経のない歯は、健康な歯に比較して歯質の弾力性がなくなり歯が脆くなります。さらに、奥歯の噛む力は、1本あたり50〜70kg程度の力がかか

るといわれており、物理的性質からも歯が割れやすくなるので、被せ物を入れることは、破折を予防することにつながります。

被せ物(クラウン)の材料は、金属・プラスチック・セラミックスなど多様で、医療保険が適応される材料と適応されない材料があります。見た目の自然さや、身体との相性(金属アレルギー等)も含め、かかりつけの歯医者さんとよく相談して、選択することが大切です。

(月曜日に掲載します)



小原 宜裕(おぼら・のぶひろ) 1960年生まれ。岩手医大歯学部卒。県歯科医師会学術医療管理委員会委員。おぼら歯科医院(花巻市)院長。花巻市在住。同市出身。